

ディアスポラの持つ可能性・力を Web 2.0 技術を通して最大限に生かす



白書

Version 1.1
2018 年 1 月

アラン・カジャングエ

Table of Contents

序文	3
要旨	4
1. Introduction.....	6
2. Rebrain の利用者	9
3. 収益モデル	10
4. 実施計画.....	12

序文

アフリカから届けられる、あるいはアフリカに関するニュースは大抵終わりの見えない戦争であったり、深刻な貧困、蔓延する疫病であったりと、長い間、人々を安心させるものでなければ、魅力的でないものでないことが続いてきたと言っても過言ではない。中には『アフロ・ペシミズム（新生アフリカの悲観）』について語りだすものもある。それでもなお、アフリカは豊富な地下資源、そして何よりも人口分布の多くを占める若い人口に恵まれている。そしてこの地下資源をそれぞれの国々を貧困から抜け出し、持続可能な発展を実現するための取り組みの中心的役割を担うものとしてみる動きが起こっている。

しかし、アフリカは様々な分野で『Brain Drain（ブレイン・ドレイン）』 - 優秀な人材・頭脳流出の意 - の影響を一番に受けている大陸でもある。他の新興国・大陸同様、アフリカは先進国で学んだり、働いたり、ビジネスを立ち上げたりしてきた科学者やエンジニア、経済学者、医者など様々な職業の優れた人材を持っているにもかかわらず、彼らの専門知識や、研究、経験がアフリカ大陸において十分に活かされていないのだ。

ブレイン・ドレインに関しては多くの研究がこれまで行われている。特にアフリカにおいてはその傾向をどのようにして逆転させるかについての研究も行われている。その数は膨らんでおり、さらには『恐怖すら抱かせる』。多くの取り組みは、この傾向を逆転に導くための取り組みとして行われており、『Brain Gain（ブレイン・ゲイン）』 - 優秀人材の再獲得の意 - への道のりの始まりとなっている。しかし、アフリカ大陸での需要と比較した場合、これらの取り組みの効果は未だ絶大とは言えない。さらには、彼らの住む国、地域で新たな生活を始め、そして確立した専門家や優秀な人材にとっても、故郷に戻って国の発展に貢献するという決断は簡単にできるものでもないだろう。

アフリカ出身の優秀な人材の大陸への帰還を促進し推奨する取り組みを行うのと同時に、私たちはどのようにして、まだ故郷への帰還の決断ができていない人材に対し関与し、彼らと連動することで、彼らのもつ影響力や能力を、経験を、そしてネットワークを最大限に活かし、活用することができるのだろうか？

この白書、そして「Rebrain」という Web 2.0 の最大の目的は、上で問われている課題解決のためのイノベティブな解答方法を、そして、アフリカ大陸外に住む様々な分野の専門家らの持つ能力・可能性を最大限に行かす方法を見つけ出すことである。

要旨

Rebrain は、故郷（母国）の企業などの様々な機関と彼らの動向を『Follower - 動向を追っている者（以下フォロワー）』であるディアスポラ（国外に移住した人たち）を繋ぐ社会的ネットワークのプラットフォームとなることである。これらのフォロワーらは、一般的には能力のある優秀な人材であることが多く、動向を『Follow』されている母国にある企業らの所属する分野に対して興味を持っていることが多い。アフリカの国々が仕事や移住などの理由により国外に住む多くの、そして大きなディアスポラのグループを抱えているのは事実だ。そして彼らの多くは母国と強い繋がりを持っていることが多い。強い繋がりを持っていることは、これまで彼らが母国での状況改善のために貢献してきた何億米ドルにも及ぶ金銭的貢献額が一つの証拠だろう。

しかし、「人に魚を与えれば 1 日で食べてしまうが、釣りを教えれば一生食べていける」という言い回しにもある様に、これまでも一時的な出身国の社会経済の発展、改善に貢献してきたが、さらに違った形で貢献し続けることも期待されている。

ディアスポラの経済的貢献に加え、アフリカの各国はどのようにして彼らの能力や経験を最大限に活かし、有効活用することができるのだろうか？

今日、アフリカの多くの国々、特に大きなディアスポラのグループを国外に持つ国々は、彼らの持つ資金・資力・資産などを最大限に活かすべく、様々な取り組みやストラテジーを考え出してきた。

これらのストラテジーには、国境を超えたビジネスの活発化、投資の誘致実現、先進的なテクノロジーや特定のスキルへのアクセス得ることの実現に向け彼らを有効活用することなども含まれている。

最後のポイントである、先進的なテクノロジーや特定のスキルへのアクセスは、中国やインドなどの国々においてはまさに起こっていることであるが、よりその証拠が限られているアフリカにおいては必ずしもそうではない。

世界銀行によって行われた調査・研究によると、高等教育を受けた、あるいは、高い能力を持つ移民の移住は重要な事柄であり、議論を引き起こすものであると同時に、とても取り扱いの難しいテーマである。発展の鍵でもあり、貧困からの脱出の鍵でもある人的資本の伝達を含むという事実が、その重要性を引き立たせる。また、議論を引き起こすものである理由は、人的資本の伝達が大抵は人材の不足に陥っている国から、優秀な人材に恵まれている国への伝達・移動によって起こるからだ。取り扱いが難しい理由は、分析の難しさにあり、データ・情報の欠陥が事象の引き金、あるいはその事象自体の影響・効果がよく理解されていないことに起因するからだ。

このような移民の原因が劇的な変化をもたらす得るにも関わらず、常に変わらない要素があり、それはそれぞれ個人の持つ故郷に対する心に抱き続ける精神的な繋がりだ。

これらの故郷に対する思いとは裏腹に、才能ある移民が自らの生活を確立した国を離れ、母国の発展に自らの持つ能力・経験を活用し貢献するために帰還するという決定を下すことは簡単な決断ではない。

これらの事実を心に、これらの人材の故郷へ貢献を促し、実現させるためには、母国への帰還や身体的移動以外の方法での貢献可能な方法を見つける必要があるのだ。

このような思考背景から、私たちはここで発表するソーシャルネットワークプラットフォームの構築を考案し・取り組んできたのだ。このプラットフォームを構築することで、アフリカ大陸街に住む高いスキルや技術力を持つ優秀な人材のたまり場へとアクセスすることが目的なのだ。私たちの考えは、個人のスキル・能力・技術力と様々な機関を組み合わせ、繋げることだ。

一番のアイデアは、ローカルの様々な機関がそれぞれの考え出しているプロジェクトやコンセプトなどを、自国以外の所に住むスキルのある優秀人材、労働力を引き付けるために共有し、掲載することのできる場を作り出すことにある。

この優秀人材を基盤とした繋がり構築・形成は、ローカルの企業や機関が決まった役職に就くべき人材を探す時などに必要な履歴書を参照することのできる場を持つことで、彼ら（ローカル企業・機関）の手助けをすることができる。また、アフリカ街に住む専門家などは、彼らが興味を持つ分野における母国・故郷での動きを把握し、すぐに帰還を決断しなかったとしても、繋がり維持することの手助けになる。また、彼らは Rebrain を通し、彼らの興味のある、あるいは得意とする分野において考え出され、このプラットフォームで共有されたアイデアやプロジェクトの実現などに積極的に参加し、貢献することができるようになる。また、他の可能性として Rebrain は、研究案や研究課題などがアフリカの成長・発展のために活用されるための情報共有の場ともなり得るのだ。

両者がうまく繋がり、事業を成功させることで、後に母国・故郷へと帰還、あるいは、限定的（休暇中や短期的な帰還など）でも母国・故郷への貢献をさらに加速させる判断材用になり得るのだ。または、ローカルの企業・機関と彼らのスキルや経験、ノウハウをさらに共有するなどの新たな繋がりをうむこのとも期待できるのだ。

1. Introduction

『アフリカがこの数十年の間に失ってきた多くの技術者や専門家の数を考えるととても恐怖を感じる。1990年以來、2万人の学者をアフリカは失い、そして、インフォメーションテクノロジーや金融専門家の10%が故郷を離れた。... アフリカ出身の科学者やエンジニアは、世界のどこよりもアメリカ、あるいはイギリスで職を得ていると推測されている。』

タボ・ムベキ – 元南アフリカ共和国大統領

1. 背景

2013年の国際連合の調査によると、アフリカ出身で大学や職業専門学校などの第3期教育を受けた者の9人に1人は、『290万人は、ヨーロッパや北アメリカ、あるいはその他の先進国で生活しているか働いている』と発表した。このような専門家を失うことの影響は、IOM

(International Organisation for Migration: 国際移住機関)の次長が表現するに、アフリカでは40億米ドルに及ぶ人材採用費のために支出や、その費用での約10万人の人材のアフリカ外から採用に現れている。

2. ブレイン・ドレインを逆転する – これまで行われてきた取り組み

アフリカで起きている「ブレイン・ドレイン」を逆転させることを目的に多くの年月を通して様々な取り組みが行われてきた。

それらの取り組みの中には、アフリカ、あるいは祖国を離れた専門家を自国、またはアフリカへの移住の実現を目的とした物理的な取り組みも採択された。しかしこのような取り組みには対象となる専門家の家族をも含めた移住の必要があったため、多額の予算が必要とされた。IOMのアフリカにおける専門知識を持つ自国民の帰還・社会統合支援の取り組みのもと1983年から1990年までの間にこの取り組みに参加していた11ヶ国、合計約2千人の本国帰還という、期待していた結果を下回る結果に終わった。

その他には、技術力・専門性のある専門家らが自国の人々に特定のサービスなどを提供できることと目的とした「ネットワーク構築」なども行われた。例として、カナダに住んでいた南アフリカの医者は、医療治療を容易に提供できるようなネットワークを構築した。

このような取り組みには、『過疎地などへ医師が医療治療を提供するための訪問』など『連続的な訪問』が含まれていた。この医師は続けて海外に住み続けたが、必要に応じてアフリカの国々への訪問を重ねた。

3. オンラインコミュニティーズ・オブ・プラクティスとしての Rebrain

『コミュニティーズ・オブ・プラクティス (CoPs) 』としての Rebrain は、共通の物事・事柄に興味を持つ人々、経験や興味の共有を行う場所を欲している人々が集まる場である。アフリカの外に住む多くのアフリカの国々出身の人々は、強い「感情的・精神的」な繋がりをアフリカに対して持っており、ブレイン・ドレインを逆転するために自らができることに積極的に貢献することが期待できる。私たちは優先的に取り組まれているプログラムのいくつかを補完する解決方法の構築に着手した。IOM のアフリカでの開発のための移住 (Migration for Development in Africa) の様なプログラムは、自国内のリソースを助けること、あるいは補充するために、ディアスポラのもつ高い専門知識や能力を『短期間の連続的な訪問』を通して有効活用することを目的とした。

しかし、これらの取り組みは、持続可能性や時間の経過によってもたらされる影響や効果などの面で様々な限界があることを浮き彫りとした。第一の課題として、この様な訪問を行うことは、間違いなく高価なものであり、数年間といった限定的な期間での継続性しか見込めない。第二の課題として、これらの訪問は、休暇などを活用することを厭わない専門知識をもつ者の身体的自由性に依存してしまうところが大きい。

Rebrain の提供するプラットフォームは、上記の大きな課題に抑えられることなく、ローカルレベルでの需要に直接的に応える専門家をターゲットとし、課題を抱えていた解決策を改善することを目的としている。

Rebrain は、「知識の共有」のソーシャルネットワークプラットフォームを基盤として構築され、このプラットフォームは地元政府、民間企業、個人、そして事業などと共に働くことで、彼らが日々の仕事・作業、計画、あるいは問題解決に専門家からの協力を要する技術的課題など特定の需要に取り組み、解決法、専門性をもつ人材などと繋げる場 (プラットフォーム) を提供することを目的としている。それぞれの団体・機関は Rebrain の提供するプラットフォームに一度登録することで、「専門家」としてそれぞれの得意分野の情報をも登録している専門家らの構成する世界に広がる専門家の成長著しいコミュニティにも見える様になるのだ。これらの提供された情報をもとに Rebrain は、「専門家」に対して、彼らの得意分野や出身国にあり共通項の見いだせる特定の機関を「追う (follow) 」するように提案することができる。「専門家」らはプラットフォームに登録することで、それぞれのプロフィールにペアとなった機関・団体の「専門家」を必要とする新たな「取り組み」を掲載毎に通知を受ける。自国の機関・団体は、当プラットフォームに登録することで、自らでは持っていない様な技術やスキルを持つ様々な「専門家」らから積極的にフォローされること、そして、壮大で、豊かで、さらには多角的な解決策を得ル事などが期待できる。場合によっては、一つの問題の解決や、取り組みの開始において、それぞれ違った国や大陸、専門性、対処法、技術力を持つ「フォロワー」のよって、問題解決などにおいて期待していた以上のコメントやメッセージ、問い合わせを受けることもある。

4. 紹介 (推薦) システム、専門知識ファインダーとしての Rebrain

Rebrain は、専門家の持つそれぞれの専門性、経験、そして趣向傾向によって、それぞれを機関・団体の業種や需要、必須条件などとマッチングさせる「専門知識・専門性ファインダー」としての役割も担っている。Rebrain の背景には、このプラットフォームに参加・登録している機

WiredIn Ltd.

<http://www.wiredin.rw>

関・団体の提出・掲載した課題に対して、解決のために必要とされる専門性や回答を世界中の専門家の中から見つけ出し、解決策を提供するという考えがある。機関・団体の課題や疑問の提出には、集団的な取り組みによって導き出された対処法を得ることができるという恩恵が付随する。

5. Rebrain の主な挑戦・課題

Rebrain プラットフォームにとって第一の課題は、どの様にして政府機関や企業のそれぞれのプロジェクトや課題のプラットフォームへの掲載を促すことにある。これらの機関・団体に対し、我々のプラットフォームへのプロジェクトや課題の掲載を促すことができないならば、このプラットフォームの意味合いも失われるだろう。オープンソースプロジェクトの事例同様、Rebrain の中核的役割・機能はプロジェクトや課題などに、解決、実施において貢献が見込まれる際大多数の個人を繋げることにある。

第二の課題は、専門家の提案する解決策や提案に地元の機関・団体が理解し、その提案された解決策などから習うことにある。ここでこのプラットフォームが抱える課題は、この地元機関・団体のプラットフォームへの課題・問題、プロジェクトを掲載によって、様々な専門家に情報が共有され、それぞれの専門家らから提案や情報が共有されることが及ぼす、「情報のオーバーロード」だろう。しかし、Rebrain は掲載された事柄に対し不適切と評価された投稿を降格する査読評価システム (peer-reviewed rating system) を導入することで、この問題を緩和する方式をとっている。

2. Rebrain の利用者

1. 地元の官民機関

世界中からこのプラットフォームに登録している専門家や技術者らからの助言などを求め、Rebrain のプラットフォーム上に自らが行なっている取り組みや事業の一部を掲載することを検討している官民機関。特に様々な事業を行う前のフィージビリティ・スタディの必要性や重要性が高まっている近年、これらの作業をより公共に晒すことで、フィージビリティ・スタディのために先進国から派遣される専門家への支出額を抑えることができると考えられる。オープンソースコミュニティと同様に、専門家や技術者がそれぞれの提供可能な時間を提供し、一つの事業を完成させるという仕組みを反映することができる。最終的には、この様なそれぞれ多くの専門家や技術者らの貢献も合わせて取り組むことで、伝統的な事業への取り組み方法に勝るとも劣らない完成度を実現できると考えられる。

2. ディアスポラであるアフリカの専門家

Rebrain は、自らの専門性を共有し、出身地や様々な国々の官民企業などとマッチングする機会を求める全ての分野の専門家らに対して、オンラインでの無料登録の機会を提供している。

Rebrain もソーシャル・ネットワーキングとして、その他の様々なソーシャルネットワーキングページが提供する全ての機能を備え、提供する。Rebrain のプラットフォームに参加している企業をフォローするのに加え、Rebrain は、それぞれのプロジェクトや、進行中の事業に関する研究の共有を提供し、問題解決、技術的な問題の解決の補助をする機能をも提供する。

評価点を設けることで、フィルターをかけた査読、不適切な発言などの削除を可能とする。

Rebrain は LinkedIn と同様の仕様と思われるかもしれないが、個人とその個人の出身国である国において、個人あるいは機関・団体と繋ぐことを目的としており、ターゲットとしているものが同様ではない。

Rebrain の様なプラットフォームはディアスポラで働く、あるいは住んでいる人々・専門家・技術者らに、出身地、あるいは大陸の生きた生の情報を提供し、彼らの本国、大陸の経済や社会発展などへの理解を深める機会を提供することができる。

3. 収益モデル

1. Web 広告

Rebrain は他者との知識の共有を厭わない、特にアフリカのそして、アフリカに関して熱心な利用者をターゲットとした「知識共有 (knowledge sharing)」型のネットワーキングプラットフォームである。アフリカ出身の専門家、あるいはアフリカの外に住みながらも、アフリカに興味を持つ者への着目が適度に抽出された全ての人口セグメントでのマーケティングチャンネルへのニッチマーケティングを可能とする。潜在的な百万の単位での Rebrain の利用者、アフリカにおけるいくつもの機関・団体の利用、参加により、特定の層へのサービスや製品の広告の機会が見込まれる。

2. Rebrain プラットフォーム登録機関・団体の会費

本国での参加機関・団体は登録し、年会費を支払うことで Rebrain のプラットフォームが提供する基本的なサービスを利用できる。

3. Rebrain プラットフォーム登録機関・団体のためのスペシャルプレミアムアカウントへの登録

Rebrain プラットフォームへの登録は、確実に彼らが様々な専門家からの助言などを得る機会を提供するだけでなく、彼らはこのプラットフォームに登録している専門家らに対して自らの製品やサービスなどを広告する場ともなる。

4. Rebrain ユーザーのためのプレミアム会員登録

Rebrain は通常登録に加え、より濃密な繋がりを構築したい会員に対し、プレミアム会員登録の機会を提供する。この様な機会を作ることにより、専門家と選出された機関・団体との間に特別な連携サービスを提供する。場合によって、この会員で登録している専門家・技術者らは、ローカルの参加者らに対し提供したい、あるいは販売したいサービスや提案を直接売り込むことができる。また、Rebrain 連携サービスでは、現地のコンテキストに変換し、よりうまく売り込む方法などのアドバイスをも受けることができる。

5. 企業としての Rebrain

企業としての Rebrain を利用することで、サービスの利用料金を支払っている機関・団体が自らの需要に合わせてカスタマイズできるよう、Rebrain プラットフォームの拡張制御の権利を得ることができる。このカスタマイズでは、その機関・団体をフォローする人数をコントロール、その



機関・団体の掲載したプランやプロジェクトの閲覧可能者を制限するなどの制御を加えることができる。

4. 実施計画

このコンセプトに迅速に取り組むため、WiredIn では概念実証を行い、ブレイン・ドレイン問題に対処するためのこの解決策の長所などを紹介した。この解決策は、すでに行われている様々な取り組みの問題点を解決・改善することに重点を置いている。すでに行われてきた取り組みもそれぞれの効力を発揮できていたが、より包括的に取り組むことで、そして資金や専門家の物理的な参加可能性への依存を減らすことで、さらなる改善が見込めるのではないかと考えている。

概念実証後、パイロットプロジェクトとして、ルワンダの地元の機関・団体を少数巻き込み取り組みを実施する予定である。また、このパイロットプロジェクトでは、ディアスポラやルワンダ国内に住む何名かの専門家・技術者の参加も募る。このパイロットプロジェクトの目的は、実際のプロジェクトの開始前に、さらに改善するために必要な事柄などの反応・評価・意見を実際の利用者から得ることにある。

4.1 概念実証 (PoC: Proof of Concept)

- 2017年9月
地元機関・団体、ディアスポラの立場からの概念実証の紹介
- webアプリケーションの開発
 - o 地元機関・団体 – 受益者/消費者
<http://rebrain.backend.wiredin.rw/site/login>
 - o 専門家 – 貢献者/協力者
<http://rebrain.frontend.wiredin.rw/site/login>

4.2 パイロット

- 2018年6月
ルワンダにある機関・団体、そして国内外に住む専門家などの利用者が使うことのできる完全に作動するプロトタイプの開発

4.3 Rebrain ライブ

- 2019年1月
プラットフォームの正式ローンチ。アフリカ全土の機関・団体も活用できる
- <http://www.rebrain.africa> のドメインのもとサービスが利用可能